

大原中だより	第8号 H27. 12. 1	さいたま市立大原中学校 さいたま市浦和区大原3-1-11 TEL 048-831-5397
--------	-------------------	---

「自分の将来を考える」

校長 安藤盛光

本校『憩いの小径』の銀杏（いちろう）の葉もすっかり色づき、小径に黄色い絨緞が敷かれてつつあります。11月は暖かい日が続いたせいか、今年の紅葉は例年より遅れているそうです。スキー場でも雪不足でオープンができずに困っているという話を聞きました。しかし、12月に入り寒さも急に増しそうです。何年前にも同じような年がありましたが、1月になってから大雪が降り、雪による被害がありました。本校でも樹木の枝がずいぶんと折れました。

「光陰矢の如し」と言いますが、月日が経つのは早いものです。今年もあっという間に最後の月を迎えてしまいました。3年生の進路選択の時期もせまってきました。例年通り、校長による面接練習も始めます。面接練習では、毎年必ずする質問がいくつかあります。その中の一つが、「将来の夢は何ですか、将来就きたい職業はありますか」というものです。生徒たちの答えをメモしていますが、過去5年間（平成22年度～26年度）のメモを見てみると、保育士、教師、看護師、料理人、医師、建築家、スポーツ選手、通訳、IT関係、デザイン関係、音楽関係、消防士、警察官、出版関係、法律関係、食品関係、運輸関係、動物関係、スポーツ関係、旅行関係といった答えが多いようです。最近の傾向として、職種がより多岐に渡っていることが挙げられます。また、JAXAに勤めたい、国連に勤めたい、介護の仕事につきたい、海上保安官、アナウンサー、ゲームクリエイター、ラグビーの選手という生徒もいました。世の中の流行も多少影響するようです。理由を尋ねると、自分なりの考えをきちんと述べてくれます。中学3年生ともなると、漠然とではありますが、将来の自分の姿を考えているものです。頼もしい限りです。一步一步夢の実現に近づいて行って欲しいと思います。

少し古い話になりますが、平成21年11月17日の埼玉新聞に、『埼玉県地方自治功労賞』を受賞した方々のインタビュー記事が載っていました。その中の一人、さいたま市水道局にお勤め（当時）の阿津澤利之さんへのインタビューがありました。タイトルは「漏水探知で機器上回る」です。最近、日本人技術者のレベルの高さ、職人技のすごさが取り上げられることも多くなりましたが、阿津澤さんは、漏水の探知・修繕に長年関わった方です。市民から漏水の通報を受けると、現場に向かい、水道管のひび割れや破損による漏水箇所を特定し、管を交換します。地中に染み出しているような場合には、探知機を使って、地下から響いてくる音を聞き分けます。管の材質やひび割れの大きさ、土壌によっても音が違うそうです。阿津澤さんの探知は最新機器を上回る精度だそうです。どんなに探知機の性能が上がっても、長年積み上げてきた人の経験にはかないません。また、それが他の人には真似のできない技術につながっています。将来を考えるに当たって、時間をかけて得られる技や職業もあることに気付いて欲しいと思っています。

先日、内閣府から学校に、1年生の脇 俊太郎君の作品が、「平成27年度 障害者週間のポスターコンクール」中学生部門で、内閣総理大臣賞を受賞したとの知らせが届きました。詳細は、次号の学校だよりでお知らせします。

生徒たちには、運動面、文化面の両方に力を発揮して欲しいと願っています。